

福島県においては、ノレソレは平成2年以降に、機船船びき網漁業により漁獲されている。地区では、平成5年以降資源管理的思想から操業を自粛している。県南地区では、平成2年以降、操業がなされているが、水揚量を確認できるのは平成5年以降である。ノレソレの水揚量は、オキアミ、コウナゴ、サヨリ等の漁模様に左右されるが、近年数t程度の水揚量があり、しかも増加傾向にある。

常磐海域におけるノレソレの水揚量は、平成5年以降急激に増加し、近年では20～30tを記録している。なお、宮城県ではノレソレの操業を自粛している。

(2) 底びき網のCPUE分布からみたマアナゴの分布・移動 (図4)

底びき網の標本船から求めた緯度経度5分メッシュのからみると、水深150m以浅に分布し、水温の変動に対応した南北移動を行う傾向がある。

(3) 常磐海域におけるノレソレの変態過程 (表1)

平成13年2月～6月に、福島県海域で採集したノレソレの測定結果を示す。サンプルは、機船船びき網及び水工研Ⅱ型ソリネットにより漁獲されたものである。採集された個体の全長組成は、2月から4月上旬にかけて小型化し、4月下旬から5月上旬にかけて大型化していく傾向が認められた。PAM×100/TMの値は、4月中旬までは70を下回る個体は見られなかったものの、4月中旬以降は30～70といった低い値を示す個体が出現した。すなわち、4月中旬には、変態期に入っている個体が生息していたことが示唆された。

(4) 年齢と成長について (表2)

表2に、4半期別のAge-Length-Keyを示す。年齢の起算日は、田中ら(1987)、望岡ら(1988)を参考に12月1日とした。常磐海域においては、1歳魚が7～9月にかけて、全長30～45cmとなり、漁獲対象資源へ加入し、翌年には、全長40～60cmに、その翌年には50～70cmまでに成長する。なお、現在までに確認された最高齢は13歳であった。

(5) 全長階級別の性比 (表3)

表3に常磐海域における全長階級別の性比を示す。なお調査データは平成12年7月から平成13年6月にかけて実施したものである。常磐海域における性比は圧倒的に雌に偏っており、雄はほとんど分布しない。

(6) 雌のGSIの季節的变化及び成熟状況 (図3、表4)

常磐海域においては、10月以降、各階級ともに平均GSIは増加していき、3月には6%程度になる。全長100cm以下のものは4月には1%程度に低下するが、全長100cm以上のものは、12月から6月まで4%以上を維持し、個体によっては、肉眼で卵粒が確認できるものが見られた。また、生殖腺の成熟状況は、一部で第2次卵黄球期まで発達するものがみられるが、ほとんどは第1次卵黄球期までしか発達しない。

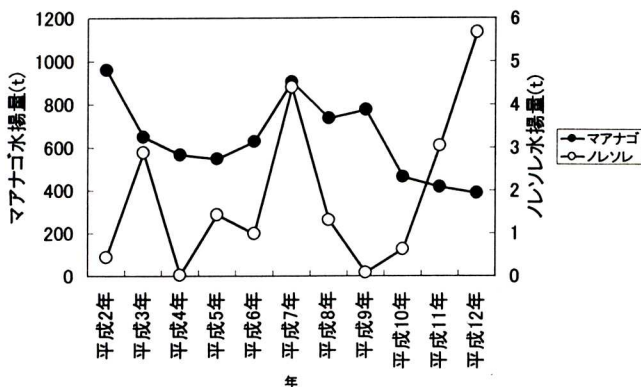


図1 福島県におけるマアナゴとノレソレ水揚量の推移

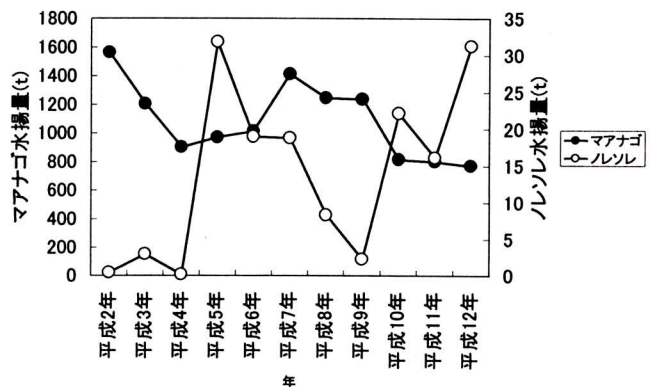


図2 福島県におけるマアナゴとノレソレ水揚量の推移